

## ぬくもりのあるふるさとに学び、大好きなふるさと博労の未来を考える

### 1 はじめに

本校は、市の中心部に位置し、本年度で創校124年を迎えた。長きにわたる歴史と伝統を誇り、地域から愛され続けている地域のシンボルである。しかし昭和20年代に2,000名を超えた児童数は現在200名余りとなり、世帯数の減少や高齢化に伴う地域活動の担い手不足が深刻な地域課題となっている。博労校区に生きる子供たちが地域課題と正対しながら、ふるさとのよさを実感し、夢や希望をもって自分たちのふるさとづくりに参画することは校区住民の願いである。本校区の気概のある「人」との温かい関わりを主軸に、ふるさと博労の幸せと未来を考えていきたい。

### 2 活動の実際

#### (1) わが校の誇り ばくろう思い出館

本校に併設されている「ばくろう思い出館」は創校100周年の際、地域住民の熱い思いで設立され、創校以来120年以上に渡って保管されてきた卒業作品が約23,000点収蔵・展示されている。



<卒業作品展示>

#### ① 全校でタイムトラベル

今年4月、同窓会、地域有志が中心となり、市美術館でのばくろう思い出館の企画展示が実現した。学校が200人規模になることから、学校全体でのスケールの大きな取組や子供たち同士が思いをもって関わる活動が必要であると感じていたこともあり、かねてから念願だった全校遠足を実施した。御車山祭りの前日、準備でにぎわう山町や山倉で準備をされる方々の様子を間近に感じながら歩いた。保護者ボランティアの見守りもあり、動物園や古城公園での縦割り活動を安全に楽しく行うことができた。次年度以降も児童会活動としてカリキュラムに組み込み、異学年交流を充実させていきたい。



<山町のにぎわいを感じて>



<ペア学年での作品鑑賞>



<古城公園での全校縦割り活動>

また、300点余りの企画展示を全校で鑑賞したことは、一体感を高め、誇りと一層の愛着を深めることにつながった。当時の生活や地域の街並み、流行の様子等を知ることができ、まさにタイムスリップをして当時の博労っ子と触れ合えたような感じがした。連綿と受け継がれてきた歴史と伝統の担い手であるという気持ちを持ちを新たにすることができた。

## ② ばくろう思い出館でのふるさと学習

本校の卒業作品の研究に取り組む広島大学大学院准教授と、ばくろう思い出館館長のお二人を講師に迎えふるさと学習を行った。

6年生は、戦中戦後の暮らしぶりや子供の様子などを聞き、学校が地域住民の熱い思いに支えられてきたことや、卒業作品には本校卒業生の思いや願いが込められており、美術教育の貴重な資料となっていることなどを知ることができた。

また、次年度以降もふるさと学習として、本年度の企画展の様子を伝えていくため、記録集を作成した。だれでもいつでも手に取って見られるようにしたことで、博労小学校の宝物を身近に感じることができた。



<思い出館でのふるさと学習>



<創校記念式での発表>



<記録集を手にする子供たち>

## (2) 子供を支える地域団体との活動

博労校区は市内でも高齢化率が高い一方で、3世代同居の家庭で育つ子供は2割にしか満たない。各種団体においては世代交代が喫緊の課題であり、地域活性化のためには、ふるさと創りに子供たちが参画していくことが地域課題でもある。本年度は子供たちが地域のために自分たちができることを考えてさまざまな活動に取り組んだ。

### ① こども夏まつり・公民館まつり

<博労公民館・児童クラブ・体育振興会・老人クラブ他>

子供たちの健やかな成長を願い、豊かな情操をと、毎年行っているこども夏まつりだが、今年は子供たちを主催者側に巻き込んで実施するという方向で計画を立てた。公民館と小学校の2か所で行われた。

公民館の飲食ブースやものづくりブースで手伝ったり、学校では3年生が菜づくりブースを担当したりするなど、自分たちにできることを考えて参加した。

3年生は、記念になるものを作って持って帰ってほしいという思いで、自分たちが調べた博労小学校自慢を菜にしてもらおうと楽しんで活動した。運営に参加した子供たちは、自分たちのためにたくさんの大人が準備や運営してくれていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができた。

また、10月の公民館まつりでは、地域の方々に感謝の気持ちを伝えようと、4年生がアトラクションに参加している。自分たちが立派にがんばっている姿を披露することで笑顔になってもらえたという経験は、地域の一員であることを自覚するとともに、博労校区をよりよいまちにしていこうという意識の高揚にもつながった。



<3年生による菜づくり>



<4年生による群読・祝い神輿>

## ② 水辺の安全教室<博労校区防災士会>

博労校区は、海拔が低く、住宅密集地が多いことから、校区住民の危機管理意識が高く、防災士会の活動もさかんに行われている。子供たちが水の怖さを正しく知ること、自分で自分の命を守ることができるようになることを願い、安全教室が実施された。講師はライフセーバーの資格をもつ、博労校区の防災士さんで、校区の水害危険個所を提示しながら丁寧に説明して下さった。残念ながら、この日は猛暑日となり、プールでの実地訓練はできなかったが、ライフジャケットの身に着け方や溺れそうになっている人を見たらどうするのかなど、動画を見ながら考えた。危険なことは「ダメ！」ではなく、何が危険でどうしたら楽しく活動できるのかを考え、理解することができた。



<もしも溺れそうになったら>



<水力で浮き上がったマンホール>



<ライフジャケットで命を守る>

## ③ 5年生 総合的な学習の時間「命を守るために高学年としてできることは？」

### <博労校区防災士会・ドローン操縦士>

博労校区の防災士会は、市内で一番早くに結成された。また、校区には市の災害ボランティアセンターがあるなど、市の防災の拠点にもなっており、自助・共助の意識の高い校区である。ふるさとを自分たちの手で守ろうという意識が若い世代へと受け継がれ、地域ぐるみで減災・防災に取り組んでいこうとしている。この博労校区の一員であるという自覚をもち、自分で自分の命を守り、災害に強いまちにするために、5年生は自分たちにできることは何かを考えて活動に取り組んだ。水害に備える避難訓練では、防災士会の方々とともに訓練を行い、博労校区ならではの備えや工夫についてお話を伺った。もし校区が浸水したら、学校が避難所となるので、自分たちにできる共助について考える機会にもなった。



<防災士会の方々の見守り>



<防災士会の方々からの講話>



<市と県の災害支援物資の見学>

また、学習の終末には、これからの防災と減災の可能性を考える場面になり、ドローンが災害現場で様々な活躍をしていることが分かった。実際に能登半島地震の際にも要救助者の捜索等で活躍したことを知り、どんなことができるのか、

より一層興味関心が高まった。そこで、防災士でもありドローン操縦士でもある地域の方を講師に迎え、ドローンと減災について考えた。災害救助では、人間の力では及ばないことや、時間の制約で救助が阻まれることがたくさんあるが、ドローンなら「あきらめない救助」ができることを知った。実際にドローンを操縦してみた子供たちは、「もっと飛ばしてみたい」「自分が思うように飛ばしたい」と楽しんだり、「どんなことに活用できるだろうか」とさらに考えたりしていた。次年度は、クラブ活動の一つに入れて、さらに工夫した取組を考えていきたい。



<災害現場でのドローンを知る>



<学校の周りを映像で確認する>



<実際に操縦してみよう>

#### ④ 6年生 博労しあわせプロジェクト<博労校区社会福祉協議会>

6年生は、家庭科と総合的な学習の時間に、「博労しあわせプロジェクト」に取り組んだ。自分たちだけではなく、博労に住む人みんなが幸せであることを願い、そのために自分たちができることを考えて実践した。校区の年長児と触れ合い笑顔にするのはとても楽しく、達成感も感じられた。しかし、校区にたくさんおられる高齢者と触れ合うにはどのようなことに気を付ければよいのだろうか、うまくいくのだろうか、自信がなかった子供たちは、民生委員の方に聞いてから活動を考えた。子供たちと話したり一緒に時間を過ごしたりする、そんな些細なことが幸せなんだということをお聞きした。交流では下の名前呼び合って話に花を咲かせるなど、温かい時間が流れた。大切なのは『相手を思う心』であり『気持ちを想像する』ことであると、何かをしてあげる、してもらおうという Win-Win の関係ではなく、みんなが幸せな『We』の関係が大切であることに気付くことができた。この高齢者交流は今後も6年生が継続して実施していく予定である。



<民生委員さんとの対話>



<サロンでの高齢者との交流>

#### (3) ばくろうおたから人財バンク

年度当初に、ふるさと教育として学校行事や教科に地域人材を活用することを確認し、カリキュラムに位置付けた。『ばくろうおたから人財バンク』には現在20名ほどの登録があり、随時協力をお願いしている。誰がどの学



<地域の歴史を学ぶ教員研修>

年になっても管理職が変わっても持続可能なシステムであり、常に質の高い教育、そして温かな関わりをもつことが期待できる。

### ① 学習サポート

専門性をもたれた方に学習のサポートに入っていただくことが質の高い教育につながる。今年の水泳学習、陸上練習、図画工作科の学習、4年生のそろばん学習をサポートしていただいた。



<4年生 そろばん学習>



<1~6年 水泳学習>



<図画工作科トリックアート>

### ② 生活科・総合的な学習の時間

3年生は、昔の小学校の様子や高岡の歴史等を聞き、社会科、総合的な学習とつないで学習を深めていった。博労小学校の同窓生というつながりは、子供たちにとって心地よいもので、話の中ににじみ出た人柄までも感じ取ることができたようだった。



<やまたちばなさんとの地域学習>



<昔のお話を聞く>



<2年生に学習成果を発表しよう>



<旅館の見学>



<いりがし屋さんの見学>

2年生は、生活科の町探検で、古くから校区で店を構え、住民のためにがんばっておられる方々にインタビューを行った。人を大切にしながら、温かい心を通わせておられることに気付き、自分たちもこんな人になりたいという思いを膨らませた。

### 3 おわりに

博労校区には、温かな人とのつながりがある。このつながりを大切にしながら、人と関わるのが楽しい！と思える子供を育成することが、活気あるふるさとづくりにつながると考える。そして、子供たちの生き方に深く関わる地域人財を発掘し、持続可能なつながりとしていくことが大切である。これからも、子供たちがふるさとの一員であるという自覚が高まるよう、人と関わりながら主体的・協働的に取り組めるような活動を考えていきたい。